



エンドポイント接続の問題のトラブルシューティング手順

この章では、Cisco APIC ツールを使用してエンドポイント接続の問題をトラブルシューティングする手順を示し、エンドポイントとトンネルインターフェイスの動作ステータスを検査する手順が含まれており、SFP モジュールを接続する方法について説明します。

この章は、次の項で構成されています。

- [エンドポイント接続のトラブルシューティング \(1 ページ\)](#)
- [エンドポイントおよびトンネルインターフェイス ステータスの検査 \(2 ページ\)](#)
- [SFP モジュールの節ゾック \(3 ページ\)](#)

エンドポイント接続のトラブルシューティング

ステップ 1 各エンドポイントの動作ステータスを調べます。

動作ステータスにはエンドポイントのエラーや設定ミスが示されます。詳細は、

[エンドポイント ステータスの検査 \(2 ページ\)](#) を

ステップ 2 トンネル インターフェイスのステータスを調べます。

動作ステータスにはトンネルのエラーや設定ミスが示されます。「[トンネルインターフェイスステータスの検査 \(3 ページ\)](#)」を参照してください。

ステップ 3 エンドポイント グループ (EPG) 間で `traceroute` を実行します。

トレーサールートでは、スパイン ノードなどの中間ノード、およびエンドポイント間の問題が明らかになります。「[エンドポイント間での traceroute の実行](#)」を参照してください。

ステップ 4 エンドポイントのアトミック カウンタを構成します。

アトミック カウンタは、発信元エンドポイントがパケットを送信しているか、また送信先エンドポイントがパケットを受信しているか、そして受信されたパケット数が送信されたパケット数に等しいかどうかを確認します。「[アトミック カウンタの構成](#)」を参照してください。

ステップ5 各 EPG でコントラクトを調べます。

各 EPG でのコントラクトを調べ、EPG 間でのトラフィックの流れが許可されているかを確認します。テストとして一時的にコントラクトを開き、無制限のトラフィックを許可することができます。

ステップ6 発信元パケットをモニタリング ノードに転送するようにスパン ポリシーを構成します。

モニタリングノードのパケットアナライザが誤ったアドレスやプロトコルなどのパケットの問題を示します。「[Cisco APIC GUI を使用したテナント SPAN セッションの設定](#)」を参照してください。

エンドポイントおよびトンネルインターフェイスステータスの検査

このセクションでは、エンドポイントとトンネルインターフェイスの動作ステータスを検査する方法について説明します。これらの手順を実行すると、エンドポイントとトンネルインターフェイスの障害または構成ミスを明らかにすることができます。

エンドポイントステータスの検査

- ステップ1** メニューバーで、[Tenants] をクリックします。
- ステップ2** サブメニューバーで、送信元エンドポイントを含むテナントをクリックします。
- ステップ3** [ナビゲーション (Navigation)] ペインでテナントを拡張し、[アプリケーションプロファイル (Application Profiles)] を拡張して、エンドポイントが含まれるアプリケーションプロファイルを拡張します。
- ステップ4** [アプリケーション EPG (Application EPGs)] を展開し、確認する EPG をクリックします。
- ステップ5** [作業 (Work)] ペインで、[エンドポイント (Endpoint)] テーブルのエンドポイントのリストから送信元エンドポイントをダブルクリックし、[クライアントエンドポイント (Client End Point)] ダイアログボックスを開きます。
- ステップ6** [クライアントエンドポイント (Client End Point)] ダイアログボックスで、エンドポイントのプロパティを確認し、[操作性 (Operational)] タブをクリックします。
- ステップ7** [操作性 (Operational)] タブで、健全性、ステータスおよび障害情報を表示します。
[ステータス (Status)] テーブルで、変更、イベント、またはエラーなどのエントリがある項目をクリックします。
- ステップ8** [クライアントエンドポイント (Client End Point)] ダイアログボックスを閉じます。
- ステップ9** [エンドポイント (Endpoint)] テーブルでエンドポイントの [インターフェイス (Interface)] エントリを表示し、ノードとトンネル ID をメモに記録します。
- ステップ10** 送信先エンドポイントでこの手順を繰り返します。

(注) ファブリック内の2つのリーフスイッチの背後に展開された2つのマイクロセグメント EPG の IP アドレス間で、双方向のトラフィックが中断されることがあります。これは、マイクロセグメント EPG からベース EPG への構成変更により、IP アドレスが移行しているときに発生する可能性があります。または逆に、双方向トラフィックの実行中に2つの異なるリーフスイッチで同時に発生する可能性があります。この場合、各リモートエンドポイントのポリシータグは引き続き以前の EPG を指します。

回避策：スイッチのリモートエンドポイントを手動でクリアするか、リモートエンドポイントが期限切れになるのを待ちます。エンドポイントをクリアするには、各スイッチの CLI にログオンし、適切なオプションを指定して **clear system internal epm endpoint** コマンドを入力します。たとえば、エンドポイントが IP アドレスに基づいている場合は、**clear system internal epm endpoint key vrf vrf_name{ip | ipv6} ip-address** と入力します。その後、エンドポイントは正しいポリシータグで再学習されます。

トンネルインターフェイス ステータスの検査

この手順では、トンネルインターフェイスの動作ステータスを調べる方法を示します。

-
- ステップ 1** メニューバーで、[Fabric] をクリックします。
 - ステップ 2** サブメニューバーで、[Inventory] をクリックします。
 - ステップ 3** [ナビゲーション (Navigation)] ペインでポッドを拡張し、発信元エンドポイントインターフェイスのノード ID を拡張します。
 - ステップ 4** ノードの下で [インターフェイス (Interfaces)] を拡張し、[トンネルインターフェイス (Tunnel Interfaces)] を拡張して、発信元エンドポイントインターフェイスのトンネル ID をクリックします。
 - ステップ 5** [作業 (Work)] ペインで、トンネルインターフェイスのプロパティを確認し、[操作 (Operational)] タブをクリックします。
 - ステップ 6** [操作性 (Operational)] タブで、健全性、ステータスおよび障害情報を表示します。
[ステータス (Status)] テーブルで、変更、イベント、またはエラーなどのエントリがある項目をクリックします。
 - ステップ 7** 送信先エンドポイントインターフェイスでこの手順を繰り返します。

SFP モジュールの節ゾック

SFP モジュールを新しいカードに接続するときは、モジュールがカードと通信するためのリンク速度ポリシーを作成する必要があります。リンク速度ポリシーを作成するには、次のステップに従います。

ステップ1 リンク速度を指定するインターフェイス ポリシーを作成します。

例：

```
<fabricHIfPol name="SpeedPol" speed="1G"/>
```

ステップ2 インターフェイス ポリシー グループ内のリンク速度ポリシーを参照します。

例：

```
<infraAccPortGrp name="myGroup">  
  <infraRsHIfPol tnFabricHIfPolName="SpeedPol"/>  
</infraAccPortGrp>
```

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。